



無限 MUGEN

2017年10月25日



悪天候で決勝レースはキャンセルに。

ガスリー、ランキング 2 位でシーズンを終える。

シリーズ名:2017 全日本スーパーフォーミュラ選手権 シリーズ第 7 戦

大会名:2017 年 全日本スーパーフォーミュラ選手権 第 7 戦 JAF 鈴鹿グランプリ 鈴鹿サーキット

距離:RACE1 5.807km×19 周(110.333km)/RACE2 5.807km×36 周(209.052km)

予選:10月21日(土)雨

決勝:10月22日(日)中止

2017 年度全日本スーパーフォーミュラ選手権シリーズ第 7 戦が、三重県鈴鹿サーキットで開催された。TEAM MUGEN は、#16 山本尚貴、#15 ピエール・ガスリーの 2 カー体制でこのレースへ参戦した。ポイントランキングで 0.5 点差の 2 番手につけている#15 ガスリーは、シリーズチャンピオンを賭けて週末を迎えた。

● 10月21日(土)

■フリー走行

#15 ガスリー (ベストタイム 1 分 55 秒 582 3 番手 セカンドタイム 1 分 56 秒 686 2 番手)

#16 山本 (ベストタイム 1 分 57 秒 341 14 番手 セカンドタイム 1 分 58 秒 982 9 番手)

台風 21 号が接近し天候悪化が懸念される中、土曜日は朝から雨が降り、路面は完全ウェットコンディションとなった。この状況を受けて大会審査委員会が、荒天で公式予選が予定通り実施できない場合、フリー走行のベストタイム順でレース 1、セカンドベストタイム順でレース 2 のスターティンググリッドを決定すると決定したため、フリー走行でタイムを記録しておく必要性が生じた。

セッションは午前 9 時 15 分、5 分遅れで始まった。WET 宣言が出る中、出走車両は全車がレインタイヤを装着してコースオープンとともに続々とコースインし、走行を開始した。しかしコースコンディションは悪く、セッション開始後 10 分で赤旗が提示された。この時点で#15 ガスリーは 3 番手、#16 山本は 16 番手につける。

降雨量が少なくなった午前 9 時 35 分、セッションが再開されたがすぐにコースオフする車両が発生して再び赤旗で走行中断、セッションは 10 分延長が決まり午前 9 時 46 分に再開された。しかし降雨量が多くタイムアップが見込める状況ではなく#15 ガスリー、#16 山本ともにピットへ戻った。

この時点で#15 ガスリーは 3 番手を維持し、#16 山本は 1 分 57 秒 594 で 16 番手に付ける。#15 ガスリーはセカンドタイムも 1 分 56 秒 686 を記録しており、もしこのままの順位で公式予選がキャンセルとなってもレース 1、レース 2 ともスターティンググリッド上位を確保していたが、#16 山本のセカンドタイムは 2 分 02 秒台でレース 2 では下位に沈んでしまう。

セッション残り 13 分となったところで#15 ガスリー、#16 山本は走行を再開した。ここで#16 山本は 1 分 58 秒 982 を記録してセカンドタイムも短縮を果たした。3 回目の赤旗を挟んでセッション残り7分の段階でセッションが再開され各車最後のタイムアタックに入った。だがコースコンディションは悪化しておりタイム短縮はならないまま 4 回目の赤旗が提示され、そこでセッションは打ち切りとなった。

■公式予選

#15 ガスリー（ベストタイム 1 分 55 秒 997 8 番手 セカンドタイム 2 分 00 秒 238 6 番手）

#16 山本（ベストタイム 1 分 57 秒 208 14 番手 セカンドタイム 2 分 04 秒 112 12 番手）

午後 1 時 55 分、20 分間の公式予選 Q1 セッションが 5 分遅れで始まった。雨は本降りコース上には各所で雨水の流れる川が出来ているコンディションである。セッションが始まると各車コースインしたが計測が始まる前の段階でコースコンディションを考慮して赤旗が提示された。

降雨が若干弱まった午後 2 時 40 分、残り 17 分でセッションが再開された。#16 山本は先頭でコースインしたが、やはり計測前にコースオフする車両が発生しセッションは再び赤旗で中断となった。

午後 2 時 50 分、セッションは残り 14 分で再開されたが降雨は強まり始めていた。しかし計測が始まったところでコースオフする車両が発生して三たびセッションは赤旗中断となった。この時点で#15 ガスリーは 9 番手、#16 山本は 14 番手につけていた。

午後 3 時、残り 8 分 30 秒でセッションが再開された。計測 1 周目、#15 ガスリーは 1 分 55 秒 997 で 6 番手、#16 山本は 1 分 57 秒 208 で 12 番手へ進出、さらにタイムを縮めにかかったが、残り時間を考えると残り 2 周しかできない。

#15 ガスリーは自己記録を更新する勢いで走行したがその周はイエローフラッグが出て前を走る#16 山本に追いついてしまい、最後の周にアタックをやり直しに入ったが 1 コーナー手前でバランスを崩しコースオフ、走行を終えてしまった。ここで赤旗が提示されセッションは打ち切りとなった。

一方#16 山本はやはり最後の 2 周となった段階で、最終ラップにタイムアタックをかけるために前の車両との間隔を開けたところ、前の車両がスピンしてコース上に止まったためそれを避けて急減速、最終ラップに改めてタイムアタックをかけようとしたが#15 ガスリーがコースオフして赤旗が提示され、タイム短縮はならなかった。

この結果、#15 ガスリーは 8 番手、#16 山本は 14 番手となり Q1 を突破したが、天候回復が見込めないため公式予選はここで終了することが決まり、審査委員会は Q1 のベストタイム順でレース 1、セカンドタイム順でレース 2 のスターティンググリッドを決定するとし、#15 ガスリーはレース 1 を 8 番手、レース 2 を 6 番手、#16 山本はレース 1 を 14 番手、レース 2 を 12 番手からスタートすることになった。しかしその後、天候悪化は不可避であることから競技団は決勝レースの中止を決定した。

こうして 2017 年シーズンは終わり、#15 ガスリーは 0.5 ポイント差でランキング 2 位、#16 山本は 9 位となった。TEAM MUGEN はチームランキング 2 位であった。また、#15 ガスリーはルーキーオブザイヤーを獲得した。

■山本尚貴選手コメント

「このところクルマのポテンシャルをうまく引き出せず、自分でもうまく乗れていないレースが続いていたんですが、今週末はクルマがすごく調子良かったので、十分トップを狙えると思っていただけに、天候のせいでこういう結果に終わってしまったのは残念です。予選のベストラップは、いつ赤旗が出るかわからない状況の中、とりあえず出しておいたタイムで、その時点でもう前にクルマがいました。少し間隔を開けて次のラップでさらにタイムを縮めるつもりでしたが、前のクルマがスプーンでスピンして、ぼくも止まるくらいまで減速して避けました。イエローが出たのでその週のタイムは無効だしリセットして最終ラップにアタックしようとしたら今度はピエールが飛んでしまい終わりました。結果は残せませんでした。手応えはあったので気持ちは複雑です」

■ピエール・ガスリー選手コメント

「レースが中止になってしまい、本当にかっかりしました。今回はクルマの調子が非常にうまく仕上がっていたので勝てると思っていたしチャンピオンも獲れると思っていました。でもフリー走行でも予選でも、常にトラフィックにひっかかってしまい、思い通りのアタックができませんでした。赤旗が続き、今まで経験したことのない週末になりました。チャンピオンにはなれませんでした。今年はずっと素晴らしいシーズンでした。2 回勝ってたしルーキーオブザイヤーにもなれて嬉しいです。最後は闘って結果を出したかったのですがレースがなかったのは残念です。チームは本当に良い仕事をしてくれましたし、ぼくも今までにない経験を積んでドライバーとして人間として一段階成長できたシーズンになりました」

■手塚長孝監督コメント

「ピエールがこの最終戦を闘うために日本へ来てくれたことに対して、本人のみならず関係者のみなさんに感謝しています。それに応えるためにポールポジションからスタートして逆転チャンピオンを獲りたかったのですが、天候には勝てませんでした。台風による競技団側の対応を理解し、朝のフリー走行から100%力を出さなければならず、後の Q1 予選でも PP を狙う気持ちでスタッフや選手達は取組んでくれましたが、うまくクリアラップが取れず、不運もあって届きませんでした。同一条件で戦って負けたという事です。悔しいです。今年 1 年を振り返ると、2 台体制で選手権をスタートし、GP2 チャンピオンを迎え入れ、前半戦はいろいろ苦勞する面もありながら、献身的に問題点を解決していき、ピエールが連続優勝してくれました。その貢献には感謝すると同時に、素晴らしい走りと集中力、強さを感じました。ピエールには第 2 ステージの目標が待っていると思います。その目標を達成できるよう祈りたいと思います。ぼくらスタッフは全員彼のファンになりましたね！山本選手は開幕戦表彰台 2 位を獲得し、また、ピエールの素直な質問にも献身的に答えてくれた事は、ピエールの勝利の一助として貢献したのだと思います。山本の後半の戦績がふるわなかった事は残念でしたが、ピエールにとっては良きライバルとして競争力の向上につながったと思います。ホンダ関係者の皆様、応援して下さった関係協力会社の皆様、そして 2 台体制をここまでまとめあげてきたチームスタッフに感謝します。ありがとうございました。また、悪天候の中、大変な思いをしながらご来場いただいたお客様、応援してくれたファンのみなさんに感謝いたします。

TEAM MUGEN スーパーフォーミュラサイト

<http://www.mugen-power.com/motorsports/sf2017/>

無限フェイスブック

<https://www.facebook.com/mugen1973/>



